

黑龍江省檔案館編

滿鐵調查報告（第一輯）1

廣西師範大學出版社



一般經濟調查報告

龍鎮縣、遼寧縣、奇克縣、烏雲縣、遼河縣

經濟調查會第一部

通	助	調	調查員	小	泉	吉	雄
譯	手	川	崎	篤	則		
加							
納							
忠							
一							

經濟資源調查報告書第	87
黑龍江	
9號經濟第	5
號	號

ハシガキ

本調査報告ハ昭和八年十一月五日ヨリ翌年一月十九日ニカケ齊齊哈
駐在第十四師團兵要給水調査隊第八班經濟調査班員トシテ踏査セル地
ノ資料ヲ纏メタモノデアル。時恰モ嚴寒ノコトトテ調査上多大ノ困難
件ツタコトハ言フ迄モナイ。然シ軍ノ親切ト調査會員一同ノ協和ニヨ
テ無事調査ヲ完了シ得タコトハ、本調査報告ノ不備ニモ拘ラス、吾々
喜ヒトスルトコロデアル。北部國境地方ノ事情紹介カ要求セラレツツ
ル折柄、本調査報告カ些カナリトモ會社始メ各方面ニ利スルトコロア
ハ辛甚デアル。尙調査隊主要辨成員、行程ヲ示スニ左ノ如シ

一、調查隊稱成員

隊長	工兵第十四大隊第一中隊長	江淵庸恭
調查員	水質調查班 關東廳技師	小黑良夫
	地質調查班 滿鐵地質調查所	森田日子次
	資源調查班	
	一般經濟 滿鐵經濟調查會	小泉吉雄
	農業資源	田中義英
助手		川崎篤則
		岡村篤太郎
通譯		加納忠一
外二下士及兵	三十五名	

二、往 路

十一月五日齊齊哈爾出發——北安鎮（滯在五日）——龍鎮（滯在八日）——二站（滯在六日）——四站（滯在一日）——堯屯（滯在七日）——霍爾莫津（滯在七日）——奇克特（滯在一日）——車陸（滯在一日）——上道幹（滯在

日) 常家屯 (滯在 一日) | 烏雲 (滯在 七日)

三、歸 路

十二月二十五日烏雲出發 | 常家屯 (滯在 一日) | 上道幹 (滯在 一日) | 車陸 (滯在 二日) | 奇克特 (滯在 七日) | 幹岔子 (滯在 一日) | 遜河 (滯在 二日) | 霍爾莫津 (滯在 一日) | 黑河 (滯在 二日) | 霍爾莫津 (滯在 二日) | 鄭家高堡 (滯在 一日) | 二站 (滯在 一日) | 老龍門 (滯在 一日) | 龍鎮 (滯在 一日) | 北安鎮 (滯在 二日) | 一月十九日齊齊哈爾歸還

因本報告書ノ度量衡單位、換算率ハ次ノ如シ

度量衡及地積

度 木尺 一尺 | 日本曲尺 一尺四分

裁尺 一尺 | 一尺一寸三分

營造尺 一尺 | 一尺五分

一アルシン | 二尺三寸四分

一	斗	日本	一斗八升
一	滿洲國	一斤	日本斤一四〇忽八厘
一	露西亞	一斤	一〇九忽六厘
一	布	度	四貫三百八三忽
一	弓	二七	〇四平方尺
一	畝	二一六坪	
一	晴	一七	二一反
一	方	地	一三二。四四五町步

目次

第一節 本地方開拓過程

第二節 農業

(一) 土地所有

(二) 土地利用

(1) 經營面積

(2) 農具

(3) 自小作狀態

(4) 農作物

(三) 農村經濟一般

(1) 地價及賣買方法

(2) 農村金融

(3) 小作樣式

(4) 勞働雇傭關係

(5) 農家ノ負擔

第三節 商業及金融

一、商 業

- (四) 農家經濟調查
- (1) 農家經營狀態
- (四) 各作物別收支
- (一) 商店數及業種
- (二) 販 賣
 - (1) 販 賣 品
 - (四) 販 賣 價 格
 - (三) 販 賣 方 法
 - (二) 販 賣 先 額
 - (一) 販 賣 額
- (四) 購 入 方 法
- (1) 購 入 先

(四) 雇傭關係

(五) 商店間ノ連絡、結合關係

二、金融

第四節 工業及鑛業

一、工業

(一) 工業經營戶數

(二) 勞働關係

(三) 資本關係

(四) 原料

(五) 產額及販路

(六) 經營形態

二、鑛業

第五節 林業及水產業

一、林業

二、水產業

第六節 交通及畜產

一、交通

二、畜產

第七節 結 言

-05-

第一節 本地方開拓過程

清朝成立前ノ本地方居住民ハ、ダウール（達呼爾或ハ打虎爾）及オロツチヨン（鄂倫春）チアル。室韋（ダウールノ先祖）ハ支那南北朝時代西紀三八六一五八九年）ヨリ西方ヲ呼倫貝爾、南方ヲ綽爾河、北東ヲ綽爾河河口ヨリ黒龍江沿岸瑗瑋ニ通スル線ヲ境界トスル呼倫貝爾以東ノ地一帯迄シルカ、アルグン兩河合流點ヨリ松花江ト黒龍口ノ合流點ニ至ル黒龍江沿岸地方ニ居住シテ居タ。又オロツチヨンハ呼瑪縣、漠河縣（呼瑪爾河沿岸）瑗瑋縣、龍鎮縣、嫩江縣（嫩江上流）、額爾克納右翼旗（伊勒呼崇阿林山嶺）ニ居住シテ居タ。吾々ノ調査地域内ニ於テハ車陸ニダウール一戸及オロツチヨン三戸其ノ他在軍陸舉拉爾協領公署管轄區域内（舉拉爾河ヲ中心トスル地方）ニハオロツチヨン約七八〇人カ居住シテ居ル

ダウールカ南北朝時代ニ此ノ地方ニ於テ收結ンテ居タ生活關係ニ就テハ明確ニハ知ルコトヲ得ナイカ、ダウールノ先祖ト稱セララル室韋ノウチ瑗瑋及ブラゴエシチエンスク附近ニ居住セルモノカ一狩獵及漁業（網

ニテ一ヲ以テ生業トシ、魚皮ニテ作レル衣類ヲ編ヒレ更ニ一馬及其ノ他ノ家畜ヲ有セシ記録アリ、且唐時代ニ彼等ニ附セラレタル大車室車ナル名稱其ノモノハ、彼等カ大ナル車輛ヲ有セシコトヲ指示スルモノナレ一「黒龍江省」一一五頁）、ソレカ農業用ノモノテアツタカ否カニ就テハ別ニ記録ハナイカ「古民族タル室車ノ後裔達呼爾族ハ、史上ニ現ハレタ最初カラ農業民族トシテ認メラレ……ダウールナル名稱ハ、浮浪生活有タル索倫族ニトリテハ單ニ農夫ナル意味ヲ有スル」(前掲書一一六頁)トノ言ヲ信スレハ、彼等ハモルガンノ所謂野蠻時代ニ入テ居タト看做シ得ル。ソシテ蒙昧時代ニアツタト思惟サレルオロツチヨリハヨリ高イ經濟段階ニ在ツタノテアル。ダウールカオロツチヨニ比シヨリ一層高イ經濟段階ニアツタテアラウコトハ現在ノ彼等兩種族間ノ生活關係ノ比較ヨリシテモ之ヲ妥當ト看做シ得ル

勿吉、金、元、明等々ノ時代ヲ經テ彼等兩族カ如何ニ段階的ニ發展シタカニ就テハ茲ニ資料ヲ有セナイカ、滿洲朝カ都ヲ北京ニ移シ(一六四四年)、支那本土ヲ制定シテ滿洲北方經營ニ著手セル際ニハ「黒龍江畔

ノダウール人ハ部落ヲナシテ住ンテ居タカ、或部落ハ防禦工事ヲ施シテ
アツタ。後ニアルバジンノ名稱ヲ得タ黑龍江ノ左岸ニ在ル小市雅克薩ハ
即チ其ノ一テアツタ。該市ノ建物ハ、全部木ヲ以テ造ラレ、且其ノ周圍
ニハ木造ノ塙カ繞サレテアツタ（前掲書一二九頁）由テアル。又一方
オロツチヨンハ依然放浪生活ヲ營ンテ居タ。

一六〇〇年代ノロシヤ勢力ノ南下ハ、古代的、前失的生活關係ヲ營テ
居タト看做シ得ル是等兩民族ノ間ニ滿、漢人ノ移住ヲ促シ、封建的生活
關係ヲ持チ込マシメル契機トナツタ。此ノ封建的生活關係ノ移植モ後ニ
述ヘルテアラウ理由ニヨリ奇克縣、烏雲縣ニ於テハ壕堽縣ニ比シ遅レタ
ルモ、兎ニ角北滿洲北部地方へ封建的生活關係ノ移植ハロシヤ勢力ノ南
下ヲ契機トスル。即チ一六五一年ロシヤカ雅薩克市ヲ占領シ黑龍江ノ下
流及松花江ニ南下シテヨリ清朝ノ邊境政策ハ積極化シ、一六八四年ニハ
壕堽市ヲ、一六八六年ニハ墨爾根市（嫩江）等々ヲ建設シ、更ニ軍路兼
郵便街道ヲモ開通セシメタ。ソシテ之ト共ニ、滿洲旗軍及漢軍旗人ト其
ノ家族ヲ各市ニ送ツタ。又水陸兩路ノ貨物、小包、人員輸送及渡河點並

驛站ノ維持ニ流刑漢人ヲ送り、之ニ當ラシメタ。之滿、漢人ノ移住及之ニ伴フ封建的生活關係移植ノ先驅ヲナス。斯カル傾向ハネルチンスク條約（一六八九年）、璦琿條約（一八五八年）、及之ニ續ク漢人移住自由ノ認可ヲ經テ益盛トナリ、夫レト同時ニ封建的生活關係崩壞ノ物的基礎ノ成熟ヲ導イタ。

註一、東支鐵道ノ開通（一八九〇年）モ移民増加ノ一因トナツタカ、直接的ニハ鐵道沿線ノ移民増加ニ役立つタ方カ多イ。

然ルニ北清事變ノ結果、ロシヤカ黑龍江右岸ノ地ヲ占領スルニ致リ、滿、漢人等ハ難ヲ避ケテ各地ニ散ツタ。此ノ時若干ノ滿洲族カ避難シ、其處テ草分ケノ人トシテ開墾ニ從事シタノカ璦琿縣堯屯、鄭家窩堡テ、吾々ノ調査區域内テ一番歴史カ古イ。然シ奇克縣、烏雲縣ノ開拓史ハ、璦琿縣ノソレニ比シ著シク新シイ。今其ノ原因ニ就テ探究セムニ、當時政治ノ中心ハ璦琿ニ在リ、奇克、烏雲縣ハ久シク願ミラレサリシ爲、又光緒三十二年（一九〇六年）漸ク興東道臺設置セラレタルモ道臺滿洲人ニシテ漢人移住ヲ欲セス、當時ノ社會的政治的經濟的諸條件モ斯カル意

圖ノ實踐ヲ許容セル爲、此ノ地方ヘノ滿、漢人移住ハ民國ニ至ル迄殆ト見ラレナカツタ。龍鎮縣モ奇克、烏雲縣ト同様政治的重要地點ナラサル爲殆ト願ラレス、日露戰爭ニ依ル奉天、吉林省地方居住漢人ノ北方移動ニ際シテモ隣接ノ拜泉、通肯縣方面ノ開墾未成熟ノ爲、若干ノオロツチヨシノ山中ニ在リシヲ除ケハ、民國ニ至ル迄廣漠タル荒地デアツタカクテ吾々ノ通過地方ハ、堯屯、鄭家窩堡ヲ除ケハ、開拓ノ歴史ハ眞ニ新シイモノデアル。從テ此ノ地方ニ於ケル現在ノ半封建的生產關係ノ移植、樹立過程モ亦新シイモノト言ハサルヲ得ナイ。敍上ノ如キ開拓過程ト其ノ歴史ノ新シサノ故ニ、オロツチヨシハ今尙野蠻時代的生活關係ヲ取り結テ居ル。尤モ古クヨリ農業人種トシテ認メラレテ居タ達呼爾人ハ、全ク漢人化シ、半封建的生產關係ノ枠内ニ自己ノ存在ヲ保テ居ル。此ノ地方ノ社會經濟構成ハ、一言テ表現スルナラハ、オロツチヨシノ如キ生活關係ノ存在ニモ拘ラス、半封建的ト稱シ得ルトコロノモノナノデアル

而シテ民國以後、半封建的生活關係ノ移植、樹立過程ニ於テ最大ナル

役割ヲ演シタルハ移民ナルヲ以テ、若干ソレカ移植過程ニ就テ研究スル
コトトスル。

民國以後、支那側政府ハ黑龍江省ノ開拓促進ノ爲、黑龍江省土地清丈
規則、黑龍江省移民規則、黑龍江省招墾規則ヲ公布シ、積極的ニ移民吸
集策ヲ講シタ。即チ招墾規則ニ於テハ齊齊哈爾ニ墾夫招來所ヲ設ケテ來
着移民ノ便ヲ圖ルト共ニ、移民招致ノ爲、招墾規則ヲ印刷シテ奉天、吉
林、直隸、山東、河南ノ各省ニ配布シ、更ニ勸誘員ヲ設ケテ各地ニ派ス
ル等定メ、又移民カ自己ノ盡力ニ依リテ他ニ十名ノ移民ヲ招來シタルト
キハ戶長ニ、百名以上ヲ招來シタルトキハ屯長ニ任スル旨公表シテ居ル
此ノ他、犁一挺ニ對シ官有地四方地ヲ開墾スル權利ヲ認メタリシテ居ル
カク生産手段ニ應シテノ土地開墾獎勵ト並ンテ、會社及公司ニヨル開墾
ヲモ獎勵シ、之ニ對シテハ犁一挺ニ對シ四方地等ト謂フ制限ヲ除却シテ
居ル

右ハ黑龍江省ノ一般的招墾規則ヲアルカ、吾々ノ調査區域中龍鎮縣ニ
關シテハ、更ニ其ノ細則的規約ヲ見ルコトカ出來ル（勿論此ノ規則ハ縣

公著ニハ保存サレ居ラス、露亞叢書「黑龍江省」ニ見ラレルニ過キヌ一
兎ニ角先ノ一般規則ノ示ス如ク、會社及公司ニヨル開墾獎勵カアリタル
爲、之カ根跡ヲ、吾々ハ龍鎮縣ニ於テ見出シ得タ。即チ同縣ニハ天字一
井ヨリ天字十四井ニ至ル迄同名ノ部落カアルカ、之ハ昔時此ノ地域ノ開
墾ヲ天乙公司カ行ヘル爲ト、開墾單位カ井ニナリヲリシ爲ト思ハレル。
天乙公司カ官吏資本テアツタカ否カハ知り待ナカツタカ、北滿開拓過程
ノ一般ニ違ハス、官吏若クハ土豪劣紳ニ依テ經營サレタモノト考ヘラレ
ル

カカル會社若クハ公司ニヨル開拓ハ、龍鎮縣ニ其ノ殘骸ヲ見ラレシノ
ミニシテ、他ノ地方ニ於テハ大部分個人的移民カ、或ハ同一地方ノ者ノ
集團的移動カ見ラレタ。移民形態ノ差異ハ紋上ノ如クテアルカ、之等ノ
移民カ如何ナル地方カラ來タカニ就テ見ルニ、大部分カ所謂國內異動ニ
屬スルモノテアルコトヲ知り得ル。一例トシテ龍鎮縣孫家船口ノ狀態ヲ
紹介セムニ、百十二戸中、直接支那本部ヨリ移住セシモノ十一戸ニ過キ
サル有様テ、大部分ハ黑龍江省南部、吉林省北部カラ移住セシモノテア